

平成 27 年 2 月 22 日 (日) 施行

第 139 回 日商簿記検定試験 3 級 解説

第 1 問

1. 借り入れた際に約束手形を振り出しているため、金融手形の処理を行う。
2. 土地購入の際の手数料および整地費用は土地勘定に含める。
3. 備品の修理費用は修繕費(費用)で処理を行う。
4. 固定資産税は租税公課(費用)で処理し、そのうちの 40%は引出金で処理を行う。
5. 前期末に貸倒引当金 ¥210,000 を計上しているため取り崩す。¥210,000 を超えた部分は貸倒損失(費用)で処理を行う。

第 2 問

※ 使用できる勘定科目より当座預金に関しては二勘定制で処理をする。

1 月 5 日

売上帳 → 福岡商店へ A 商品 ¥300,000 掛売上

当座預金出納帳 → 当店負担発送費 ¥5,000 の支払い

(借) 売 掛 金	300,000	(貸) 売 上	300,000
発 送 費	5,000	当 座 預 金	5,000

1 月 10 日

当座預金出納帳 → 熊本商店より仕入 ¥200,000 の支払い

買掛金元帳(熊本商店) → 熊本商店より ¥100,000 の掛仕入

(借) 仕 入	300,000	(貸) 当 座 預 金	200,000
		買 掛 金	100,000

1 月 20 日

売上帳 → ¥30,000 掛戻り

(借) 売 上	30,000	(貸) 売 掛 金	30,000
---------	--------	-----------	--------

1 月 30 日

買掛金元帳(大分商店) → 大分商店に買掛金の支払いとして ¥250,000 の小切手振出し

当座預金出納帳 → 大分商店に ¥250,000 の小切手を振り出している

当座預金残高 ¥195,000 → ¥0 不足分の ¥55,000 → 当座借越

(借) 買 掛 金	250,000	(貸) 当 座 預 金	195,000
		当 座 借 越	55,000

第3問

1日	(借) 仕入	252,000	(貸) 前払金	50,000
			買掛金	200,000
			現金	2,000
5日	(借) 所得税預り金	1,500	(貸) 現金	1,500
8日	(借) 仮払金	25,000	(貸) 現金	25,000
9日	(借) 現金	100,000	(貸) 売上	400,000
	受取手形	300,000		
10日	(借) 旅費交通費	24,000	(貸) 仮払金	25,000
	現金	1,000		
	当座預金	70,000	前受金	70,000
11日	(借) 仕入	280,000	(貸) 当座預金	80,000
			支払手形	200,000
12日	(借) 当座預金	149,000	(貸) 受取手形	150,000
	手形売却損	1,000		
17日	(借) 前受金	70,000	(貸) 売上	350,000
	売掛金	280,000		
	発送費	3,000	現金	3,000
20日	(借) 支払手形	100,000	(貸) 当座預金	100,000
22日	(借) 当座預金	200,000	(貸) 売掛金	200,000
24日	(借) 買掛金	250,000	(貸) 当座預金	250,000
25日	(借) 給料	150,000	(貸) 所得税預り金	1,500
			当座預金	148,500
	通信費	7,000	当座預金	7,000
26日	(借) 水道光熱費	20,000	(貸) 当座預金	20,000
	支払利息	8,000	当座預金	8,000
29日	(借) 支払家賃	50,000	(貸) 現金	50,000

第4問

間接法→備品勘定は取得価額を表わす。直接法→備品勘定は帳簿価額を表わす。

(ア) 資産の帳簿価格＝資産の取得価額－減価償却累計額なので

間接法の勘定より (ア) = 144,000 - 6,000 となる。

(イ) 決算日より減価償却の処理を行う。間接法の勘定から解る。

(ウ) 決算日より減価償却の処理を行う。間接法の勘定から解る。

(エ) 資産の帳簿価格＝資産の取得価額－減価償却累計額なので

間接法の勘定より (エ) = 144,000 - 30,000 となる。

第5問

決算整理事項等

1. 現金の帳簿価額は¥695,000 実際有高は¥690,000 → 現金（貸方）¥5,000

(借) 雑 損	5,000	(貸) 現 金	5,000
---------	-------	---------	-------

なお、精算表の残高試算表の現金が空白のため帳簿価額¥695,000 を記入する。
記入すると、残高試算表の借方合計が解るので差額で資本金勘定の金額を計算する。

2. 受取手形満期日の処理

(借) 当 座 預 金	100,000	(貸) 受 取 手 形	100,000
-------------	---------	-------------	---------

3. 商品の掛販売の処理

(借) 売 掛 金	200,000	(貸) 売 上	200,000
-----------	---------	---------	---------

4. 貸倒引当金の設定

受取手形残高：¥600,000－¥100,000 売掛金残高：¥500,000＋¥200,000

$(¥500,000 + ¥700,000) \times 2\% = ¥24,000$

差額補充法より、貸倒引当金繰入額は¥24,000－¥20,000＝¥4,000

5. 売上原価の計算

(借) 仕 入	500,000	(貸) 繰 越 商 品	500,000
繰 越 商 品	450,000	仕 入	450,000

売上原価：¥500,000＋¥8,300,000－¥450,000＝¥8,350,000

6. 消耗品の処理

(借) 消 耗 品 費	70,000	(貸) 消 耗 品	70,000
-------------	--------	-----------	--------

残高試算表に消耗品勘定があるため、資産法で処理していると解釈する。

7. 備品の減価償却

$¥600,000 / 10 = ¥60,000 / 年$

(借) 減 価 償 却 費	60,000	(貸) 減 価 償 却 累 計 額	60,000
---------------	--------	-------------------	--------

減価償却累計額：¥180,000＋¥60,000＝¥240,000

8. 費用の繰延

残高試算表によれば支払家賃¥900,000 だが、このうち¥180,000 は時期に繰り延べる

(借) 前 払 家 賃	180,000	(貸) 支 払 家 賃	180,000
-------------	---------	-------------	---------

支払家賃：¥900,000－¥180,000＝720,000

9. 費用の見越

11月、12月の計2ヵ月分の利息を見越し計上する。

$¥1,500,000 \times 2\% = ¥30,000 / 年$ $¥30,000 \times 2 \text{ ヶ月} \div 12 \text{ ヶ月} = ¥5,000$

(借) 支 払 利 息	5,000	(貸) 未 払 利 息	5,000
-------------	-------	-------------	-------

支払利息：¥25,000＋¥5,000＝¥30,000

損益計算書より、当期純利益：¥561,000